

浅草寺は、1400年近い歴史を持つ観音靈場である。

寺伝によると、御本尊が、お姿を現されたのは、飛鳥時代。

推古天皇36年(628年)3月18日の早朝だった。

宮戸川(今の墨田川)のほとりに住む檜前浜成・竹成兄弟が漁をしている最中、投網の中に一躰の像を発見した。仏像のことをよく知らなかつた兄弟は、像を水中に投じ、場所を変えて何度も網を打つた。しかし、そのたびに尊像が網にかかるばかりで、魚が取れなかつたので兄弟は、この尊像を持ち帰つた。

土地の長に見てもらうと聖觀世音菩薩の尊像であるとわかつた。翌朝里の童子たちが草でつくつたお堂にこの觀音様をお祀りした。「御名を称えて一心に願い事をすれば、必ず功德をお授けくださる仏様である」と近隣の人々に広まつた。

浅草寺に伝わる縁起には、觀音さま示現の日、一夜にして辺りに千株ほどの松が生じ三日を過ぎると天から金の鱗を持つ龍が松林の中に下つた、と記されている

この瑞祥が、後つけられた山号の「金龍山」の由来となつた。注1

又現在の、浅草寺寺舞として奉演される「金龍の舞」もこれに因んでます、そして現在の雷門の提灯の底には龍の彫刻が施されています。

この龍は水神様として「雲を呼び、雨を降らす」と古くから信じられ、町に火事が起きないようにとの願いが込められています。

浅草寺宝蔵門に、大わらじが奉納されてます。

大わらじは仁王様の力を表し「このような大わらじを履くものがこの寺を守っているのか」と、魔物が驚いて去っていくと言われています。その重さ500Kgあります

大わらじは右と左の鼻緒の重なりが違います、着物と同じで左が前に来るのが「男わらじ」右が前に来るのが「女わらじ」です。本堂から見て左側が男わらじ右側が女わらじです。

制作時や行列の際左右を区別できるよう配慮したものです。注2

ところで

地名は「あさくさ」なのに「寺」がつくと「せんそうじ」になるのは何故でしょう？

答は「お寺だから」です。お寺は仏様が祀「まつ」られている場所。仏教は、主に中国を経由して日本に伝えました。その影響で、お寺の名前には中国の漢字の読み方である音読みが使われることが多いのです。

浅草寺の隣に浅草神社がありますが、読み方は「あさくさいんじゃ」。神社は、日本古来の神様を祀っている場所なので読み方も日本古来の「訓読み」となることが一般的です。

只、訓読みのお寺がないわけでもなく、「清水寺」は、「きよみずでら」で、

牛若丸伝説の「鞍馬寺」は、「くらまでら」と訓読みします

例外的にも訓読みが定着した例です。注3

又

浅草は地下鉄の発祥の地と言われ東洋で初めて地下鉄が誕生しました。

浅草～上野間で、運賃は10銭でした。

大変な賑わいで僅か5分程度の乗車時間なのに1～2時間以上の待ち時間だったようです。注4



注1



注2

出典(本文・写真はYAHOOから検索し下記情報を参考に編集しました)

注1:浅草寺HP/TOP(写真共)

注2:宝蔵門大わらじ

注3:検索/地名は浅草なのになぜ浅草寺「せんそうじ」

注4:三井住友トラスト不動産/アーカイブHP